

2019年1月24日

ご担当者 各位

学校法人河合塾

経営戦略担当

大学入試センター試験 受験生の自己採点結果を徹底分析 センター平均点はアップの予想、国公立大は堅調な人気

河合塾では、1月19日（土）・20日（日）に実施された大学入試センター試験の受験者から寄せられた自己採点・志望校データ（センター・リサーチ[※]）をもとに分析し、センター試験の概況と受験生の志望動向についてまとめました。

※センター・リサーチとは、河合塾で行った大学入試センター試験受験者の自己採点・志望校データ集計です。

2019年度参加人数 436,634人／センター試験受験者の8割超

なお、調査資料をご紹介いただける場合は「河合塾調べ」とのクレジットを入れていただけますよう、お願い申し上げます。

★分析サマリー（別紙3枚）

より詳細な志望動向や、大学別学力分布、また、国公立大二次試験・私立大学センター試験利用入試への出願の目安となるボーダーラインなどは、こちらよりご覧いただけます。

⇒ <https://www.keinet.ne.jp/center/>

センター試験の概況①

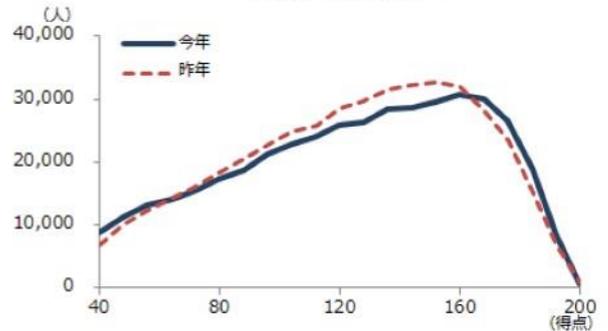
● センター試験平均点

教科・科目		昨年	今年	差	
英語（筆記）		123.8	124	±0	
英語（リスニング）		22.7	31	+8	
数 学	数学Ⅰ・数学A	61.9	60	-2	
	数学Ⅱ・数学B	51.1	53	+2	
国語		104.7	122	+17	
理 科	①	物理基礎	31.3	31	±0
		化学基礎	30.4	31	+1
		生物基礎	35.6	31	-5
		地学基礎	34.1	30	-4
	②	物理	62.4	58	-4
		化学	60.6	55	-6
		生物	61.4	63	+2
		地学	48.6	47	-2
地 歴 ・ 公 民	世界史B	68.0	65	-3	
	日本史B	62.2	64	+2	
	地理B	68.0	62	-6	
	現代社会	58.2	57	-1	
	倫理	67.8	62	-6	
	政治・経済	56.4	56	±0	
	倫理, 政治・経済	73.1	65	-8	
総 合 型	5-7文系型	552	570	+18	
	5-7理系型	560	572	+12	

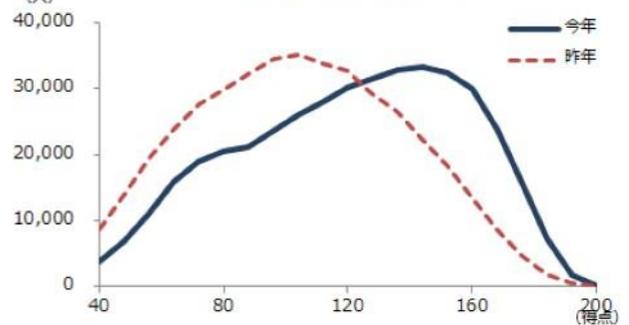
※7科目文系型（900点満点）：外・数（2科目）・国・理・地公（2科目）
 ※7科目理系型（900点満点）：外・数（2科目）・国・理（2科目）・地公（理①は2科目を1科目とみなして集計）
 ※今年の数値は河合塾予想、総合型は兩年とも河合塾推定

● センター・リサーチ参加者の科目別得点分布

< 英語（筆記） >



< 国語（全体） >



左はセンター試験の平均点（2019年度は河合塾予想）。

英語（リスニング）、国語で平均点がアップ。

英語（リスニング）は昨年過去最低の平均点となり話題になったが、今年は得点しやすかった様子がうかがえる。

また、英語（筆記）は平均点に大きな変動はないが、得点分布をみると高得点層でやや増加している。

理科①では、最も選択者の多い生物基礎がダウンしたが、理科①4科目とも30～31点台となり、選択科目による不公平感はほとんど感じられない。

理科②では、受験者の多い物理、化学の平均点がダウン。理系生は理科で得点できなかったと感じている受験生が多かったと推測する。

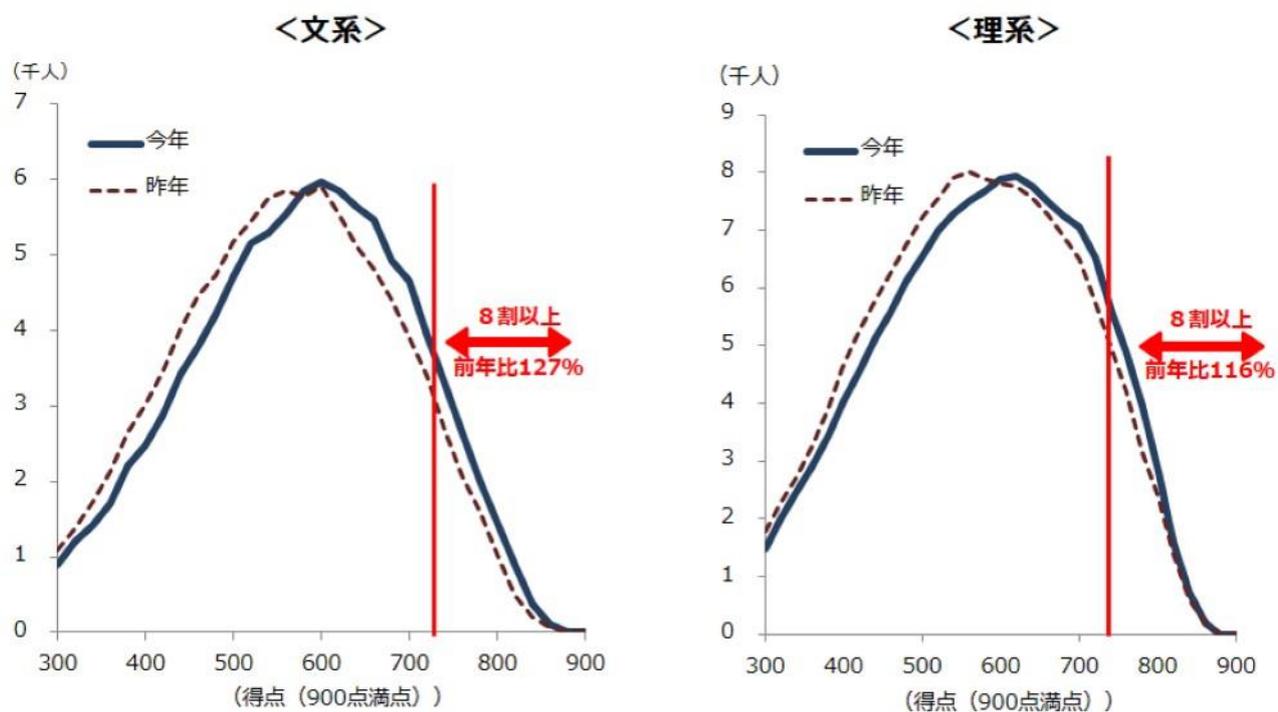
なお、理科②、地歴・公民とも得点調整はない見込み。

理科、地歴・公民では平均点ダウンとなった科目はあるものの、英語・国語といった主要科目の平均点アップにともない、

7科目型では文系・理系問わず平均点は上昇すると推定。

センター試験の概況②

● センター・リサーチ参加者の7科目型得点分布



※ 7科目文系型：外・数（2科目）・国・理・地公（2科目）

※ 7科目理系型：外・数（2科目）・国・理（2科目）・地公

国公立大の受験を狙う7科目型受験者の文系・理系別の得点分布（※）。

文系・理系ともに、分布はより高得点の右寄りに動いており、難関大合格の目安となる8割（720点）以上の成績層で増加している。

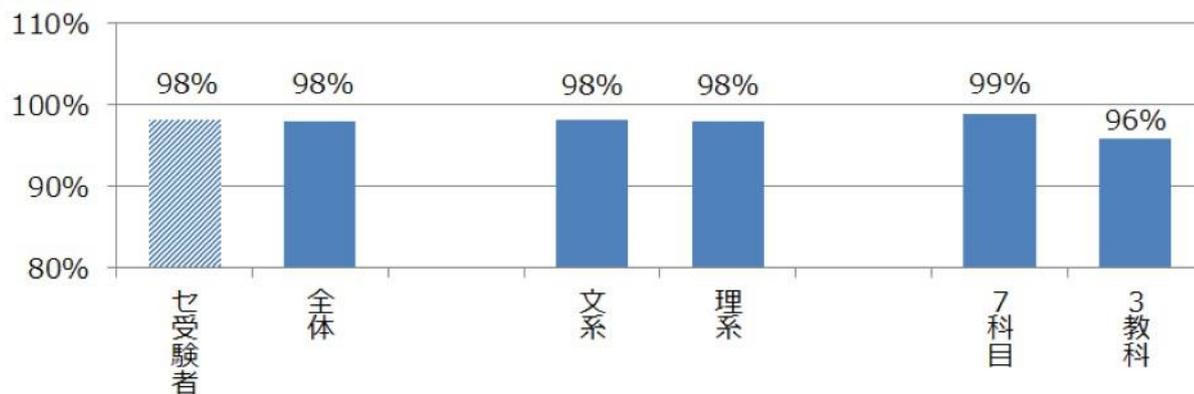
英語（リスニング）、国語などの平均点アップが7科目型の分布にも反映されている。

※得点分布は河合塾センター試験自己採点集計「センター・リサーチ」のもの

【センター・リサーチ】参加状況

● 参加者数 436,634人

(前年比)



※セ受験者はセンター試験外国語受験者数

※文系・理系は本人のマークによる

● (参考) センター試験の状況

	昨年	今年	前年比
志願者数	582,671	576,830	99.0%
現役	473,570	464,950	98.2%
既卒等	109,101	111,880	102.5%
外国語受験者数	548,465	538,603	98.2%
(受験率)	(94.1%)	(93.4%)	

センター試験受験者から寄せられた河合塾の自己採点集計（センター・リサーチ）の概況。

今年の「センター・リサーチ」の参加者数は436,634人。

センター試験「外国語」受験者に占める割合は8割を上回った。

データ件数の前年比は98.1%となり、「外国語」受験者数と同様の減少率である。

文系・理系別では、ともに98%と前年並み。

教科型別では、国公立大志望者が中心となる7科目型は99%となる一方、私立大志望者が中心となる3教科型は96%と減少が目立つ。

私立大では、2018年度入試の難化の影響により、AO・推薦入試へ回避した受験生も多かったと推測する。

国公立大の志望動向①（全体概況）

● 全体概況



※難関10大：旧帝大・東工大・一橋大・神戸大

準難関・地域拠点大：筑波大・千葉大・横国大・新潟大・金沢大・岡山大・広島大・熊本大・首都大東京・大阪市大

※「地区別」「大学グループ別」は前期日程で集計

※文系学部：文・人文、社会・国際、法・政治、経済・経営・商、教育 理系学部：理、工、農、医療 その他：生活科学、芸術・スポーツ科学、学際

● 大学グループ別

	全体			現役	既卒	女子
	昨年	今年	前年比	前年比	前年比	前年比
1 難関10大	57,975	57,447	99%	98%	105%	98%
2 文系学部	21,103	21,246	101%	99%	108%	99%
3 理系学部	35,025	34,416	98%	97%	103%	97%
4 その他	1,847	1,785	97%	94%	117%	95%
5 準難関・地域拠点大	46,950	46,664	99%	98%	109%	98%
6 文系学部	20,800	20,861	100%	99%	119%	98%
7 理系学部	24,109	23,676	98%	98%	103%	97%
8 その他	2,041	2,127	104%	104%	103%	105%
9 その他大	152,710	150,900	99%	99%	97%	98%
10 文系学部	67,300	66,407	99%	98%	104%	99%
11 理系学部	71,430	70,511	99%	99%	94%	99%
12 その他	13,980	13,982	100%	100%	98%	96%
13 国公立大計	257,635	255,011	99%	99%	102%	98%
14 文系学部	109,203	108,514	99%	99%	109%	99%
15 理系学部	130,564	128,603	98%	99%	98%	98%
16 その他	17,868	17,894	100%	100%	102%	97%

国公立大全体の志望動向。

国公立大では、前期日程・後期日程とも前年並みである。

一方、中期日程で増加しているのは、公立大で新規実施する大学が増えているため。

国公立大全体では、堅調な人気である。

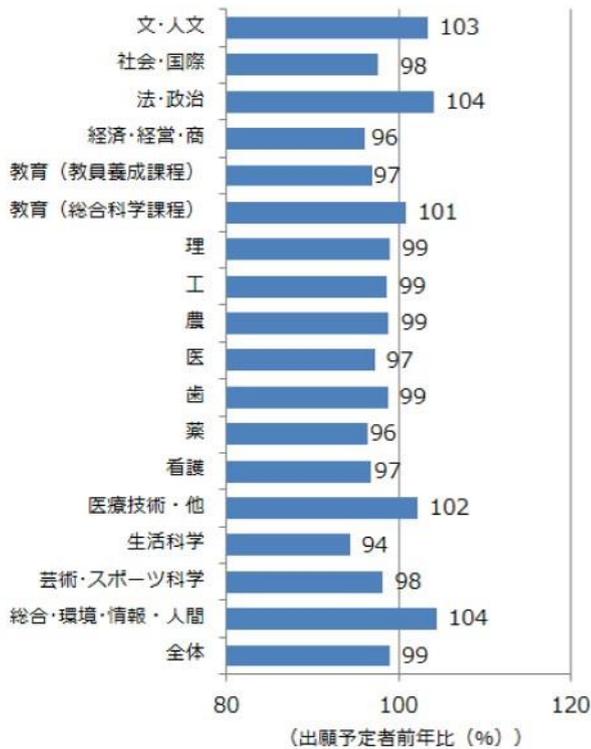
右側の表は、国公立大を3グループ（難関10大、準難関・地域拠点大、その他大）に分け、さらに各グループを文系学部・理系学部・その他に細分化し志望者数を集計したもの。

いずれのグループも全体の志望者数は前年並みだが、文理別にみると、理系学部の減少率がやや高いのが特徴。

また、難関大では、既卒生の増加が目をひき、とりわけ文系学部での増加率が高い。

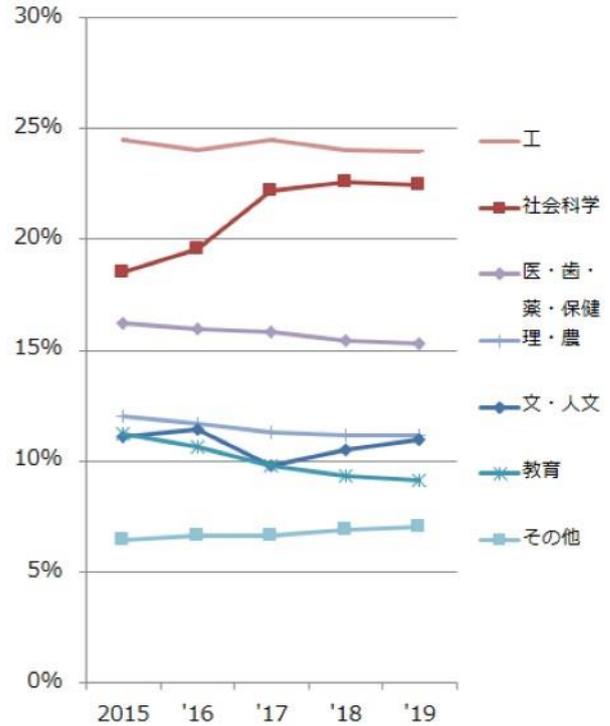
国公立大の志望動向②（学部系統別）

● 志望者前年比



※前期日程で集計

● 系統別志望者の占有率の推移



※各年度ともセンター・リサーチ出願予定者（前期日程）で集計

※社会科学：社会・国際、法・政治、経済・経営・商

その他：生活科学、芸術・スポーツ科学、学際

国公立大の学部系統別に動向をみると、近年続く「文高理低」の基調は変化がみえる。

文系では、「文・人文」「法・政治」系が増加している一方、昨年の人気系統だった「経済・経営・商」学系は、前年比96%とやや減少。

理系では、「理」「工」「農」学系は前年並み。

ただし、「工」は分野により異なる。通信・情報分野では志望者は増加しているが、建築・土木環境や応用化学・材料物質といった分野では志望者が減少している。

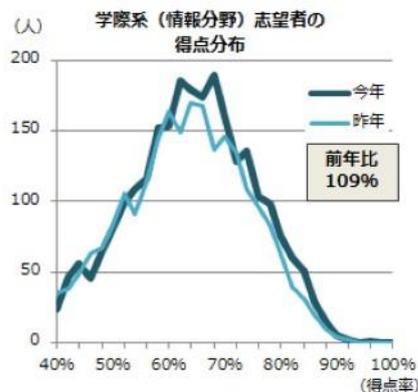
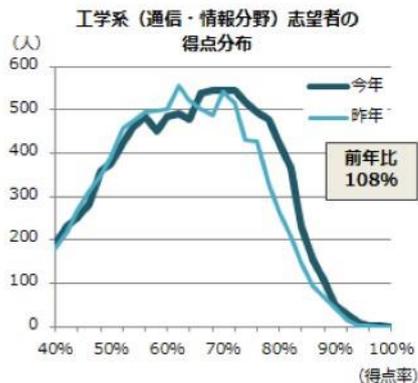
「医」「薬」などの医療系ではやや減少が目立ち、競争の緩和が期待できそう。

右の折れ線グラフは、過去5年のセンター・リサーチにおける学部系統別の志望者占有率の推移を示したグラフ。

社会科学系の学部の占有率は近年大きく上昇している。今年は「経済・経営・商」学系で出願予定者数がやや減少しているとはいえ、社会科学系全体では人気を維持している。

情報系 主な大学の志望動向と難易度の変化

大学	学科(方式)	募集人員 (前年並)	志望者		ボーダー得点率 (前年並)	ボーダー得点率														
			人数	前年比		55	60	65	70	75	80	85	90							
京都	情報	87	332	89	88															
東京工業	情報理工	86	627	-	84															
横浜国立	数物-情報工学	30	203	111	83 (△3)															
名古屋	コンピューター科学	53	211	97	83															
大阪	情報科学	74	243	109	83 (△1)															
東北	電気情報物理工	170	568	92	82 (△1)															
筑波	情報科学	50	323	119	81 (△3)															
横浜市立	データサイエンス	40	170	79	81 (△3)															
東京農工	知能情報システム工	65 (-27)	181	72	80 (△2)															
九州	電気情報工	130	468	100	80 (△2)															
神戸	情報知能工	85 (-1)	311	91	79 (△1)															
首都大学東京	情報科学	30	337	99	78 (△3)															
千葉	情報工学	57	306	113	77 (△2)															
名古屋工業	情報工	85	386	117	76 (△2)															
大阪市立	電気情報工	39	251	120	76 (△2)															
埼玉	情報工	40	315	94	75															
京都市芸繊	情報工学	34	160	91	75 (△1)															
静岡	情報科学	55	290	99	73 (△4)															
広島	情報科学(B型)	36	127	123	73 (△1)															
群馬	社会情報	56	197	109	71 (△5)															
兵庫県立	社会情報科学	60 (+50)	149	-	71															
岡山	情報系	41	175	108	71 (△1)															
愛知県立	情報科学	54	269	94	69															
熊本	情報電気工	100	213	108	69 (△4)															
滋賀	データサイエンス	50	178	132	68 (△2)															
新潟	工-情報電子	101	207	95	67 (△2)															
徳川	電子情報システム工	105	228	82	67 (△1)															
九州工業	情工1類	105	440	123	67 (△2)															
山梨	情報メカロニクス工	35	69	106	66 (△5)															
茨城	情報工	45	174	90	65															
前橋工科	生命情報	25	82	96	65 (△2)															
富山	知能情報工学a	40	104	79	65															
和歌山	システム工	170	497	100	65															
長崎	情報工学	37	108	92	64 (▼1)															
香川	情報通信(Aタイプ)	24	57	102	63 (△3)															
鹿児島	情報生体システム工	56 (-4)	125	116	62 (△1)															
公立ほこだて未来	システム情報科学	135	377	110	61 (△2)															
岩手	シス-知能-メディア情報	35	132	133	61 (△3)															
長崎県立	情報システム	20	91	132	61 (△2)															
弘前	電子情報工	31	80	95	58															
高知工科	情報(A方式)	40	99	104	57															
琉球	知能情報	33	93	94	56 (△1)															
公立諏訪東京理科	情報応用工(A方式)	66 (+56)	63	-	53															



※表は主な情報分野の方式を抜粋、表・グラフは前期日程で集計
 ■はボーダー得点率の位置 ※は前年のボーダー得点率の位置を示す

人工知能(AI)技術などの発展を背景に人気を集めている情報系について、おもな国公立大学の志望動向と難易度の変化をまとめた。

左側の表は、主な「工」学系の通信・情報分野と、「学際」系の情報分野の学部・学科について、予想ボーダー得点率の高い順番に並べたものである。志望者が増加している大学が目立つほか、多くの大学でボーダーが上昇している。

2019年度入試から学院別募集となる東京工業大では、情報理工学院が一番人気となっている。

また、新設3年目となる滋賀大(データサイエンス)や、2018年度新設の広島大(情報科学)では、志望者が大幅に増加している。

右側の得点分布は、「工」学系の通信・情報分野、「学際」系の情報分野志望者の得点分布。

いずれも分布の山はひとまわり大きくなっており、こちらからも人気を確認できる。